

令和4年度 石川工業高等専門学校の課題 外部評価報告書



令和5年3月

はじめに

石川工業高等専門学校は、昭和40年4月に国立高等専門学校第4期校として設立され、爾来、本科8,993名（女子1,578名）、専攻科561名（女子104名）もの人材を送り出してきました。

この間、科学技術の発展、国際政治・経済情勢の激変、さらには人の価値観レベルの変化等も背景として、産業技術の世界は高専制度創設当時には想像もしなかった革新・変貌を遂げ、高等教育、特に高等専門学校に期待される役割も大きく変わり続けてきました。

石川高専が送り出してきた人材は、このような時代の変化に適応し、時宜にかなったカリキュラム編成や授業内容（シラバス）の変更等を重ねてきた成果であり証しでもあります。

近年で言えば、グローバルに活躍する人材の育成、情報セキュリティ教育や非情報系学科を含む全学科での情報教育の強化・高度化、地域の活性化を旨とした地元産業界との連携活動への取り組みなど、本学の教育システムは絶え間ない変革と進化を続けてきました。さらに、DX人材の養成、スタートアップ（起業）教育の開始など、将来の日本の発展に向けた準備も着々と進めています。

大きな変化として、法令等の改正により平成3年以降、高等教育機関は、外部評価も含め自ら点検・評価を行い、結果を公表することで教育の質の向上・改善に取り組んでいくことが強化されました。

本学では、平成7年度に自己点検評価部会を設置して自己点検評価を実施し、その結果を報告書『明日へ向けて』として3～5年ごとに発行しております。また、同時に「運営諮問会議」を設置し、毎年地域の教育研究機関、行政機関、企業等の学外有識者の皆様による外部評価を受け、ご指摘を受けた課題について改善を図り、本学の運営にフィードバックしています。

「運営諮問会議」による外部評価は、地域の事情に精通されている有識者の皆様から評価をいただくものとして、毎年実施し、国立高専の重要な使命の一つである産学連携や地域への技術者人材輩出等について地域の皆様の様々なニーズを踏まえたご意見をお伺いできる貴重な場と認識しております。

質の向上に資する外部評価としては「運営諮問会議」の他にも、独立行政法人法に基づく中期目標・中期計画等の政府への実績報告制度、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による学校運営、健全性を評価する機関別認証評価（直近受審は令和3年度）・認定専攻科（直近受審は平成30年度）・学位授与に係る教員の適性を審査する特例認定（平成26年度より毎年度受審）の制度、日本技術者教育認定機構（JABEE）によるワシントン協定に基づく国際認証（令和4～5年度に受審中）などがあり、これらを十分に活かして、石川高専の教育の質を向上させてまいります。

このたび、コロナ禍においても絶え間ない活動が続ける本学の活動状況について、教育・研究・社会貢献・管理運営等の諸活動に区分して地域の学外有識者の皆様にご説明させていただくとともに、忌憚のないご指摘とご意見をお願いするため、令和5年3月6日に運営諮問会議を開催いたしました。

本報告書は、各委員の皆様からの評価をそのままの形でまとめてあります。良い評価をいただいている項目がある一方で、厳しい評価をいただいた項目があることも認識しております。

厳しい評価内容項目については、今後、逐次分析し、それらに対応した改革を積極的に遂行することが、本学に課せられた重要な使命であり、それがまた評価していただいた委員の皆様の労に報いることでもあると承知しております。またコロナ禍による様々な規制・自粛が緩和される段階に至り、活動の停滞等を速やかに回復しさらに進展するためにも、頂いた貴重なご意見をしっかりと活かしてまいります。

最後になりましたが、運営諮問会議の皆様には、ご多用な中での多大な労に心から深く感謝申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年3月30日

石川工業高等専門学校
校長 嶋 倉 剛

目 次

はじめに

I	これまでの経過	1
II	外部評価（運営諮問会議）	
1	石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	2
2	令和4年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要	3
3	外部評価シート	8
III	全体講評	12
	運営諮問会議開催の公表	13

おわりに

I これまでの経過

第1回運営協議会（平成16年3月開催）

第2回運営協議会（平成17年3月開催）

第3回運営協議会（平成18年3月開催）

第4回運営協議会（平成20年3月開催）

平成20年度運営諮問会議（平成21年3月開催）

平成21年度第1回運営諮問会議（平成21年11月開催）

平成21年度第2回運営諮問会議（平成22年3月開催）

平成22年度運営諮問会議（平成23年3月開催）

平成23年度運営諮問会議（平成24年3月開催）

平成24年度運営諮問会議（平成25年2月開催）

平成25年度運営諮問会議（平成26年2月開催）

平成26年度運営諮問会議（平成27年2月開催）

平成27年度運営諮問会議（平成28年2月開催）

平成28年度運営諮問会議（平成29年3月開催）

平成29年度運営諮問会議（平成30年3月開催）

平成30年度運営諮問会議（平成31年2月開催）

令和元年度運営諮問会議（令和2年2月開催）

令和2年度運営諮問会議（令和3年2月開催）

令和3年度運営諮問会議（令和4年3月開催）

令和4年度運営諮問会議（令和5年3月開催）

Ⅱ 外部評価（運営諮問会議）

1 石川工業高等専門学校運営諮問会議 委員名簿

北陸先端科学技術大学院大学 理事（教育，学生担当）・副学長	飯 田 弘 之
石川工業高等専門学校 同窓会 会長 （聖建築設計事務所 代表）	石 村 聖一郎
石川県商工労働部長	内 田 滋 一
公益財団法人石川県産業創出支援機構 理事長	田 中 新太郎
金沢大学 理事（教育・高大院接続・大学院改革・ 情報担当）・副学長	森 本 章 治
津幡町長	矢 田 富 郎
石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長 （株式会社コスモサミット 代表取締役社長）	山 西 幸 一
石川県小中学校長会 副会長 （金沢市立浅野川中学校長）	由 井 力

（五十音順）

2 令和4年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要

(1) 日 時 令和5年3月6日(月) 14:00～16:30

(2) 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

(3) 出席者

・運営諮問会議委員

飯 田 弘 之 (北陸先端科学技術大学院大学 理事(教育, 学生担当)・副学長)

石 村 聖一郎 (石川工業高等専門学校 同窓会会長)

(聖建築設計事務所 代表)

田 中 新太郎 (公益財団法人 石川県産業創出支援機構 理事長)

森 本 章 治 (金沢大学 理事(教育・高大院接続・大学院改革・情報担当)・副学長)

山 西 幸 一 (石川工業高等専門学校 技術振興交流会会長)

(株式会社コスモサミット 代表取締役社長)

由 井 力 (石川県小中学校長会副会長)

(金沢市立浅野川中学校長)

・学校側出席者

校 長	嶋 倉 剛
副校長(管理運営担当)	富 田 充 宏
副校長(地域・国際連携担当)	道 地 慶 子
校長補佐(教務主事)	金 寺 登
校長補佐(学生主事)	畔 田 博 文
校長補佐(寮務主事)	岩 竹 淳
校長補佐(図書情報主事, 図書館長)	山 田 悟
校長補佐(入試広報担当)	徳 井 直 樹
専攻科長	義 岡 秀 晃
事務部長	本 芳 則
総務課長	川 崎 貢
学生課長	小 俣 明 美

・欠席者 内田委員, 矢田委員

<会議写真>



森本議長



嶋倉校長



飯田委員



石村委員



田中委員



山西委員



由井委員



会議風景（本校出席者）

（４）議事概要

【開 会】

総務課長から、令和４年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。引き続き、配付資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶及び議長選出】

嶋倉校長から、挨拶の後、当会議の議長を森本委員（金沢大学 理事（教育・高大院接続・大学院改革・情報担当）・副学長）に委嘱したい旨提案があり、了承された。また、運営諮問会議委員に対し、配付資料及び当会議の結果を踏まえた評価シートへの評価記載について、協力依頼があった。

【議 事】

1. 「石川工業高等専門学校の実況 外部評価のための資料」の概要

標記全体説明及び資料の各章の概要について、次のとおり説明があった。

全体説明（嶋倉校長）

I 理念・目的

第１章 学校の目的（富田副校長）

II 教育活動

第２章 教育組織（実施体制）（富田副校長）

第３章 教員及び教育支援者等（富田副校長）

第４章 学生の受け入れ（徳井校長補佐（入試広報担当））

第５章 教育の方法および内容（金寺教務主事）

第６章 教育の成果（金寺教務主事）

第７章 学生支援（金寺教務主事，畔田学生主事，岩竹寮務主事）

第８章 施設・設備（富田副校長，山田悟図書情報主事）

第９章 教育の質の向上及び改善のためのシステム（金寺教務主事）

III 研究活動

第１０章 研究体制と支援（道地副校長）

IV 社会活動

第１１章 地域社会との連携（道地副校長）

第１２章 国際社会との交流（道地副校長）

V 広報・評価・管理運営

第１３章 広報活動（山田悟図書情報主事）

第１４章 本校が受ける評価（富田副校長）

第１５章 財務（川崎総務課長）

本校からの説明後、質疑応答、意見交換が行われた。

主な質疑、意見は以下のとおり。

○（委員）

教育活動の説明の中で特に印象に残ったのが専攻科関係で、新しいカリキュラムを準備されているということ。時代の流れに乗ってより魅力を出すために必要なことだと思いますが、その辺どういうふうに準備されたのか大変興味があり、お聞かせいただきたい。

（本校）

新しいカリキュラムは令和5年度にスタートさせます。内容の協議は2年前から時間をかけて行ってきました。本校には専攻科委員会、教務委員会がありますが、この委員会だけでは十分な議論ができないこともあり特別にワーキンググループを設置し、議論を行ってきました。まず、本編資料26ページに記載の4つの方針を立てて、全体でどれくらいの量で設定するかというところから議論し、学科に落とし込みながら進めていきました。

（委員）

今までのカリキュラムをバージョンアップさせるなど世の中の流れに合わせて行うものと思うが、フィードバックやPDCAサイクルをどのように回すかが大事なところ。その辺はいかがでしょう。

（本校）

企業や卒業生等を対象とした種々のアンケートがあるので、その回答を受けて行います。また、アンケートの回答だけでなく社会からの要請もあり、これは学校として目標を決めて行わなければならない。新しいカリキュラムがどのような評価となるかは今後のアンケート等の調査で現れてくるものと考えています。

○（委員）

数理データサイエンスに関連して、リテラシーレベルの全学科導入は理解していますが、応用基礎レベルを電気や情報以外の学科にも導入するとなるとかなり大変であると思う。何かをリストラするのか？どのような形で全学対応するのかお尋ねしたい。

（本校）

数理データサイエンスやAIは、非情報系学科であっても、これからは、基礎スキルとし、当たり前前の道具として誰でも使えるようになっていかないといけない。本校としては、基礎スキルとして応用基礎レベルを捉えています。時間は限られていますが、何かを削ってということは考えておりません。例えば、機械工学科であれば、機械工学の実験の中に取り入れるなど既存の授業の中に入れ込む形で上手く工夫しながら実施できるよう現在検討しているところです。

○（委員）

夏休みの変更について、学科1年生から3年生も大学に合わせるのか、変更の理由も含めてお尋ねしたい。

（本校）

学科1年生から専攻科生まで同じスケジュールとしなければ、教員が同じであることから、立ち行かないため、一斉に実施する予定です。実は、平成24、25年度に本校は一旦夏休みの時期を変更しています。しかし、暑さのことがあり、エコではないということからまた元に戻した経緯があります。ただ、調べてみるとほとんどの高専がそちらにシフトしていて、学会や各種コンテストのいろいろなイベントの日程が合わずに行けないことが多くなり、イン

ターンシップも最近では8月下旬と9月に実施されるなどいろいろな条件で学生が不利益を被ることが多くなったことから来年度より変更することとなりました。

○（委員）

長期インターンシップは、希望者だけが行くことになりますか。その場合、学生が希望する企業等に行かせていただきたい。

（本校）

希望者が行くことにはなりますが、100%近い学生が希望します。自分の進路選択ということもあり、行った方がいいと先輩たちから聞いているようです。報告会などの情報を下の学年に上手くフィードバックすると、自分の仕事、これから長くお世話になる企業かもしれないという意味で教員が思う以上に参加率が高くなっています。また、希望していない学生には強制はしていません。希望する企業等へのマッチングに関しては、認識不足でした。

○（委員）

中学校、小学校もそうですが、いじめ、不登校がとても問題になっています。石川高専でのいじめ、不登校の状況を差し支えなければ教えていただきたい。

（本校）

対人関係のトラブルについては、見守りを行っている。見守りというのは、当該学生のケアに努め、いろいろな訴えを聞きながら、その学生にとってどういうふうにしていくのがいいのかを考えています。今、少しでもそういったことが起こらないように、1年生から5年生までのシリーズものとして対人関係構築のワークを含めた心理教育を導入しようと思っています。

寮においては、一番身近にいる寮生会の学生が情報を拾い上げることができます。寮生会には、教員と当該学生との間で情報を共有してもらっています。

【閉 会】

嶋倉校長から、委員に対する謝辞に引き続き、総務課長から閉会宣言があった。

（以上）

（５）資 料

1. 石川工業高等専門学校の実況-外部評価のための資料-
2. 石川工業高等専門学校の現況（資料編）
3. 石川工業高等専門学校評価シート（別途：5段階評価基準）（委員のみ）
4. 石川工業高等専門学校運営諮問会議規程
5. 石川工業高等専門学校「学校要覧」（2022年度版）
6. 石川工業高等専門学校 2023 学校案内リーフレット
7. 石川高専だより
8. 石川工業高等専門学校の課題 令和3年度 外部評価報告書
9. トライアル研究センター ニュースレター Vol.44, 45
10. 石川工業高等専門学校技術振興交流会 会員企業ガイドブック 2022

3 外部評価シート

記入要領

評点欄には下の基準による5段階評価の評点をご記入ください。

5：優れている あるいは 適切である。

4：やや優れている あるいは ほぼ適切である。

3：普通 あるいは どちらとも言えない。

2：やや劣っている あるいは あまり適切とは言えない。

1：劣っている あるいは 適切とは言えない。

部	章番号	章タイトル	令和4年度		令和3年度
			自己評価 平均評定 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)
第Ⅰ部 理念・目的		本校の精神			
		沿革 概要及び卒業生			
	1	学校の目的	5.0	5.0	5.0
第Ⅱ部 教育活動	2	教育組織（実施体制）	5.0	5.0	5.0
	3	教員及び教育支援者等	5.0	4.6	4.6
	4	学生の受け入れ	5.0	5.0	4.6
	5	教育の方法および内容	4.0	4.6	4.5
	6	教育の成果	5.0	4.8	4.5
	7	学生支援 学習支援等（7.1～7.4） 進路指導（7.9～7.10）	5.0	4.8	5.0
		学生支援 課外活動・生活指導・ 学生相談等（7.5～7.7）	5.0	4.6	5.0
		学生支援 学生寮（7.8）	5.0	5.0	5.0
	8	施設・設備 共同利用施設	4.0	4.3	4.3
	9	教育の質の向上及び改善のための システム	4.0	4.6	4.4
第Ⅲ部 研究活動	10	研究体制と支援	4.0	5.0	4.7
第Ⅳ部 社会活動	11	地域社会との連携	5.0	5.0	4.6
	12	国際社会との交流	4.0	4.5	3.9
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	13	広報活動	4.0	4.6	4.3
	14	本学が受ける評価			
	15	財務			

委員のご意見

部	章	記入欄
第Ⅰ部 理念・目的	本校の精神 沿革 概要及び卒業生 第1章 学校の目的	・建学の精神を大切にしつつ，時代にあった確かな歩みをしていることが感じられました。
第Ⅱ部 教育活動	第2章 教育組織（実施体制）	・学務全般において，学生目線での丁寧な教育プログラムのデザインと学生への対応がなされ，各々は充実した学生生活が送れるという印象を受けました。定期的にカリキュラムの見直しをすることでより有益で魅力的な教育プログラムとしている。少子化や工学系離れなど学生募集での苦戦が想定される中，多数の優秀な学生さんが入学し，進路においても企業への就職や大学院への進学（ないし本科卒のあと学部への編入）など大変充実していることがうかがえた。学生さん方は思春期の年代であり，いじめや不登校といった諸問題の可能性が多々あるにもかかわらず，しっかりとケアをされており，平素の教員の皆さんのご尽力が推察されます。そのような点も含め，教員の皆さんのご負担が相当なものではないかと憂慮する次第ですが，きちんとした労務管理もなされているとのことですので健全な運営がなされていると判断できます。教育的な配慮が行き届いており，成果がいろいろな形で現れているものと感じています。学業はじめ種々のコンテストでの卓越した結果など，加えて，部活動などにおいても非常に優秀な成果をあげていることは帰属意識を高める上でも効果的と思われます。 ・MCC，CBT，アクティブラーニングなど専門用語が分からず理解が難しかったので，教育関係者以外にも分かるように説明が欲しかったです。 ・授業参観に多くの保護者が参加されているようで驚きました。いいことだと思います。 ・いじめ，不登校対策をさらに充実するよう努めていただきたい。
	第3章 教員及び教育支援者等	
	第4章 学生の受け入れ	
	第5章 教育の方法および内容	

	第 6 章 教育の成果	・夏休み期間を令和 5 年度から 8 月中旬-9 月に変更し、全国的な動きに合わせる予定とのことだが、1-3 年生教育への影響を最小限に留めるよう努めていただきたい。 ・令和 3 年度「高専機構理事長賞」受賞は高く評価される。 ・全国や周辺の高専が志願倍率を下げている中、近年ずっと 1.69 倍を維持していることは高く評価される。また女子生徒数も最近伸び悩んでいるものの長期では増加しており、更なる増加に期待したい。
	第 7 章 学生支援	・数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定において、全学科でリテラシーレベル、先行 2 学科で応用基礎レベル認定を受けたことは大変素晴らしい取組だと考える。他学科の既存科目に拡大する際には、生徒にも分かり易いように科目名やシラバスでの工夫が望まれる。
	第 8 章 施設・設備	・多少の変動はあるものの、授業改善のためのアンケート結果の経年変化が、新型コロナ禍の困難な時期を含みながらも、着実に向上していることは素晴らしい成果である。また専攻科修了生の TOEIC スコアも着実に増加している。 ・課外活動や各種コンテストでも着実に結果を出しており、先生方のご指導に敬意を表する。
	第 9 章 教育の質の向上及び改善のためのシステム	・ただ、専攻科の学生の進学率が全国平均を大きく下回っており、優秀な理工系生徒を集めている貴校には、我が国の将来の技術者・科学者育成のためにも、さらなるキャリア形成教育を期待する。 ・BYOD を着実に推進しながら、学科毎のニーズに合わせて情報処理センターの設備の更新に努めている。 ・学生による授業評価アンケート結果が毎年右上がりに伸びていることは素晴らしいと思うが、なぜそうなったのか。 ・教員の時間外勤務時間の実態把握。
第Ⅲ部 研究活動	第 10 章 研究体制と支援	・従前同様、科研費採択など研究成果の実績をあげていることは特筆すべきである。専攻科の学生さんが活発に研究成果を対外で発表（国際会議や国際ジャーナル）するような方向性もあるだろうと推察します。そうすることで、大学院への進学意欲が高まるものと予想されます。本科の学生さんでも、本人の希望により、研究活動に参加して学術的成果あるいは産業界への貢献の種を生み出す喜びを感じられるようにする機会を持つことで将来へ

		のインセンティブになる可能性を感じる。 ・定評のある科研費の高い採択率に加えて、最近の寄附金や受託研究費等の受入実績の伸びは高く評価される。
第Ⅳ部 社会活動	第 11 章 地域社会との連携 第 12 章 国際社会との交流	・地域社会との接点として、地元企業でのインターンシップ経験があると推察致します。先生方の目線からすると、短期のインターンシップとは言え、企業様へ派遣するのは相当心配であると思います。それゆえ、インターンシップ派遣の前と後の個別のフォローアップが重要と思いますが、就職率の高い現状から判断するに、インターンシップでそれぞれ大変良い経験をされ、勉学のモチベーションを高める効果を生み出しているものと推察するものです。一方、国際化の観点では、留学生を受け入れることで、多様性や包摂性といった概念をじかに体験するまたとない環境を構築していると思います。留学生を受け入れることは留学生として派遣することと同様な効果があるものと拝察する次第です。 ・海外で活躍する OB/OG 講演会は、生徒に国際性を意識させ世界に羽ばたく人材を養成するという観点からは大変重要である。また海外提携校とのオンラインセミナーも有効である。今後も積極的に進めて欲しい。
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	第 13 章 広報活動 第 14 章 本校が受ける評価 第 15 章 財務	・広報、評価、財務、管理運営とそれぞれの部署がしっかり対応しており、高い評価を受けるものと判断します。
〔全体についてのご意見〕 ・校長のリーダーシップが発揮できる環境は貴学の良き伝統であると思います。ますますのご発展をご祈念する次第です。 ・今年度も石川高専の教育は着実に前進しているとの印象を受けた。先生方の労務管理にも気を配り、校外の人材も有効に活用しながら、さらなる教育改善に取り組んでいただきたい。		

Ⅲ 全体講評

・受験倍率 1.6 倍を維持しているところは素晴らしいことだと思います。また、工業高校や高専で一般的に工学部の不人気ということもありますが、政府や文科省は、理工系をさらに強化しなければ日本が沈んでしまうという危機感から、いろいろな施策を打ち出しています。このような背景を踏まえ、特に女子を含めた理工系の人材育成を地方自治体、大学、高等教育機関それから学校も含めて協力し、学生をエンカレッジしていくことが重要です。貴校には、ぜひその先頭でがんばっていただきたいと思います。

・同じ高校世代でも、博士の学位を持っている先生が身近にいて、そういう目線で高校世代から教育を受けられることは特出すべきことであり、その良さはどこに出ているのかというところをアピールできていることが大事だと思います。また、これまで貴校の学生を受け入れる中で感じたことは、英語に苦手意識を持っているようであること。これは食わず嫌いだと思います。そのような学生が5年間くらいドクターに在籍し、だいたい2, 3回（合わせて1年程度）留学させると苦手意識がなくなり、世界的に活躍している卒業生がたくさんいます。そういった意味では、とても良い感じであるし、貴校の出身者はとてもがんばっていると思います。

・貴校において様々な取り組みを行っていることがとても印象的でした。

・最近工業系の高校の倍率が下がっており、公立高校を受けないという生徒が増えていると感じる中、貴校は、受験倍率 1.6 倍くらいを維持されています。やはり、それ相応の魅力がある学校だと思います。

・県内企業の皆さんは、本当に人手不足で困っています。国立高専が石川県に1校あって、評判も良くてがんばっていらっしゃるので、ぜひ生き残ってもらわないといけないし、最新の設備、最新の形であっていただきたい。

・高専の社会の評判は非常に良い。本日の説明でいろいろ努力されていることを感じました。これからも高専の卒業生が社会で活躍するうえで、この良い評判を守り続けていただきたい。

石川高専 NEWS & TOPICS

令和4年度運営諮問会議を開催

石川高専では、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を3月6日に開催しました。

石川高専の教育、研究、社会活動等を自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言から、今後の教育の改善、研究及び地域貢献の活性化を図ることを目的としています。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事等幹部教職員12名が出席しました。また、嶋倉副校長の挨拶後、議長に金沢大学の森本理事（教育・高大院接続・大学院改革・情報担当）・副学長が選出されました。

議事に入り、嶋倉校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献や国際交流等について各担当者による説明後、質疑応答や活発な意見交換が行われました。委員からは、多くの有意義な意見や提言が寄せられ、最後に森本議長から全体の講評が述べられました。

石川高専は、今回の貴重な提言を活かして 層の運営改善を行い、今後の研究活動の充実につなげていきます。

外部評価委員の方々

森本章治 金沢大学理事・副学長

飯田弘之 北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長

田中新太郎 石川県産業創出支援機構理事長

山西幸一 株式会社コスモサミット代表取締役社長・石川工業高等専門学校
技術振興交流会会長

石村聖一 聖建築設計事務所代表・石川工業高等専門学校同窓会会長

由井 力 金沢市立浅野川中学校長・石川県小中学校長会副会長



森本 金沢大学理事・副学長



飯田 北陸先端科学技術大学院大学理事・
副学長



会議風景

#石川高専

すべて

石川高専 運営諮問会議を開催

石川高専は、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を3月6日に開催した。同校の教育、研究、社会活動等を自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言から、今後の教育の改善、研究及び地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事等幹部教職員12名が出席。

また、嶋倉剛校長の挨拶後、議長に金沢大の森本理事(教育・高大院接続・大学院改革・情報担当)・副学長が選出された。

議事に入り、嶋倉校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献や国際交流などに関する各担当者による説明後、質疑応答や活発な意見交換が行われた。委員からは多くの有意義な意見や提言が寄せられ、最後に森本議長から全体の講評が述べられた。

同校では、今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の研究活動の充実につなげていくこととしている。

外部評価委員は次の各氏。▽森本章治金沢大理事・副学長▽飯田弘之北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長▽田中新太郎石川県産業創出支援機構理事長・前石川県副知事▽山西幸一(株)コスモサミット代表取締役社長・石川高専技術振興交流会会長▽石村聖一郎聖建築設計事務所代表・石川高専同窓会会長▽由井力金沢市立浅野川中学校長・石川県小中学校長会副会長



飯田北陸先端大理事・副学長

森本章治金沢大理事・副学長

石川高専

有識者による運営諮問会議

石川高専は3月6日、学外有識者による運営諮問会議を開催した。同会議には大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事等幹部教職員12名が出席した。

嶋倉校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献や国際交流等について各担当者による説明後、質疑応答や活発な意見交換が行われた。委員からは多くの有意義な意見や提言が寄せられ、最後に森本議長から全体の講評が述べられた。



森本章治金沢大理事・副学長

おわりに

新型コロナウイルス感染症第8波の感染状況の続く中、令和4年度の運営諮問会議を無事に開催できたことに對し、出席された委員の皆様をはじめ、関係者各位に感謝を申し上げます。本校の1年間の教育活動や取組に対する外部有識者からのご意見を伺える本会議は、本校にとって貴重な機会であり、開催できたことは本当に幸いなことであります。

高専の使命である教育活動全般については、委員の皆様からは総合的に高い評価をいただきました。特に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定など本校の教育改善への対応に関してや学生による授業方法改善のためのアンケート結果の経年変化の着実な向上に対しても高い評価をいただきました。本校の教員が研鑽に努めた結果と考えます。令和5年度からは先進的な取り組みとして「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成」も全学科で本格的に開始します。今後とも教育改善に取り組んでいく所存であります。また、少子化にともなう中学生の減少や新型コロナによる制限にもかかわらず入試倍率を維持していることにも高い評価をいただきました。日頃からの地道な入試広報活動の効果であり、「体験入学」や「夏休みこども石川高専」などの来校の行事を通して、本校の素晴らしい設備および各学科の魅力を伝えることができたからだと思います。今後、石川県の中学生の急激な減少が始まることから、次年度以降も入試広報の充実に努めたいと考えています。一方で、いじめ・不登校の対策を充実すべきとのご意見もありました。学生の個人情報に係る難しい面もありますが、学生主事・学生支援委員会・担任の連携を密に対応をしていきたいと考えています。また、MCC、CBTなどの専門用語の理解が難しいとのご意見があり、次年度の会議運営に反映させていただきます。

研究体制については、昨年度に引き続き科研費の採択件数について高い評価をいただきました。また、寄附金や受託研究費の受入実績の伸びについても評価をいただきました。学生に質の高い教育を提供するためにも研究活動は不可欠であり、教育と学生支援とのバランスを取りながら今後も研究活動を進めて、研究成果の実績を高めていくつもりであります。

地域社会との連携と国際交流については、4学年のインターンシップの派遣と新たな国際性涵養教育としての「海外で活躍するOB/OG講演会」について高い評価をいただきました。令和5年度は建築学科が海外研修旅行を再開する予定であり、今後は積極的に学生の海外活動を増やしていくこととしております。

全体としては、委員の皆様から校長のリーダーシップの下、石川高専の活動全般として高い評価をいただきましたが、教職員の労務管理などのご指摘も受けました。本校教職員はご指摘された教育改善に取り組み、新型コロナの感染後の社会環境においても本校の教育理念を継続して、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者を育成していく所存であります。

最後に、年度末のご多忙かつ大変な状況の下で、多大なご尽力をいただきました運営諮問会議委員各位に對し、深甚の謝意を表します。また、自己点検評価報告をまとめた本校の運営会議、点検評価委員会の委員各位、報告書・資料集の取りまとめおよび作成にあたった総務課の皆さんにお礼を申し上げます。

令和5年3月30日

石川工業高等専門学校
副校長 富田 充宏



石川工業高等専門学校の課題 令和4年度 外部評価報告書

発行 令和5年5月
編集 総合企画会議
発行者 石川工業高等専門学校
〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条タ1
TEL 076-288-8000
FAX 076-288-8014
URL <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/>



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College